

アイ・ラヴ・ユー アイ・ラヴズ・ユー

南風 こまち

血のような斜陽が街を紅く染める。
都バスの片隅で私はうずくまるように座っていた。
ずっと、あなたのことを考えながら。

あなたの横顔。

あなたの目。

あなたの声。

あなたの笑顔。

それが、恋に花を咲かせた。

花はやがて、実を結ぶ。

そう信じて疑わなかった私は、もう、いない。

選ばれなかった花は、落ちて、朽ちるだけ。

落とされた花は、二度とあなたの目に入らない。

それだけ。

……。

バカだな、私。

そんなことを考えるなんて疲れているのよ、きつと。

『合羽橋です』

バス停で車窓が停まる。

そこには、あなたがいた。

でも、私の心に花は咲かない。

その目は、私を見ていないから。

その笑顔は、私に向けられてはいないから。

あなたの横の、お前。

そう、お前だよ。

柄にもなく粗い言葉も、投げかけなければ届かない。

そのまま彼女は、あなたを横取りしてしまう。

『発車します』

バスが動き出す。

隠れるようにそっと、横目で振り返る。

あなたに負けないくらいの彼女の笑顔。

並ぶ二人に、私の心が痩せ細る。
痩せた土に花は咲かない。

どうして、私じゃないの？

どうして、その女なの？

どうして私は隠れているの？

目を閉じようとして、やめる。

あなたの幻影が浮かぶから。

窓の外は商店街

流れる店の速度が緩む。

ぎらり。

シヨウウィンドウの中、何か光を投げかける。

バスの中の、お前。

そう、お前だよ。

信号で車窓が停まる。

少し行き過ぎた店のシヨウウィンドウには。

……。

明日、さっきのバス停で降りてみようか。

……。

バカだな、私。

そんなことを考えるなんて疲れているのよ、きつと。

そう信じて疑わなかった私は、もう、いない。

バスが動き出す。

遠のく私の目に、投げかけている。

シヨウウィンドウの中から、投げかけている。

横並びで歩く二人を押しつけて、投げかけている。

血のような斜陽を吸い、投げかけている。

刃物が紅い光を投げかけている。

都バスの片隅で私はうずくまるように座っていた。

ずっと、あなたのことを考えながら。

ずっと、あの女のことを考えながら。